

いなわな 岩 穴

分類：史跡

町指定文化財：昭和 47 年 3 月 30 日指定

平山地区

町指定文化財

岩穴

岩穴は、種子島に古くから伝わる乾燥浴、岩穴焚きが行われた場所で、南方起源の風習だといわれています。

岩穴焚きは、いまでいうところのサウナ風呂のようなもので、農閑期に行われ、瀬風呂焚き同様、古くから民間入浴療法として親しまれてきました。10日～15日の療養期間で、ヒエヒキ（破傷風）・神経痛・リュウマチ等に効果があったといわれています。また、何より集落民の大切なコミュニケーションの場でもありました。

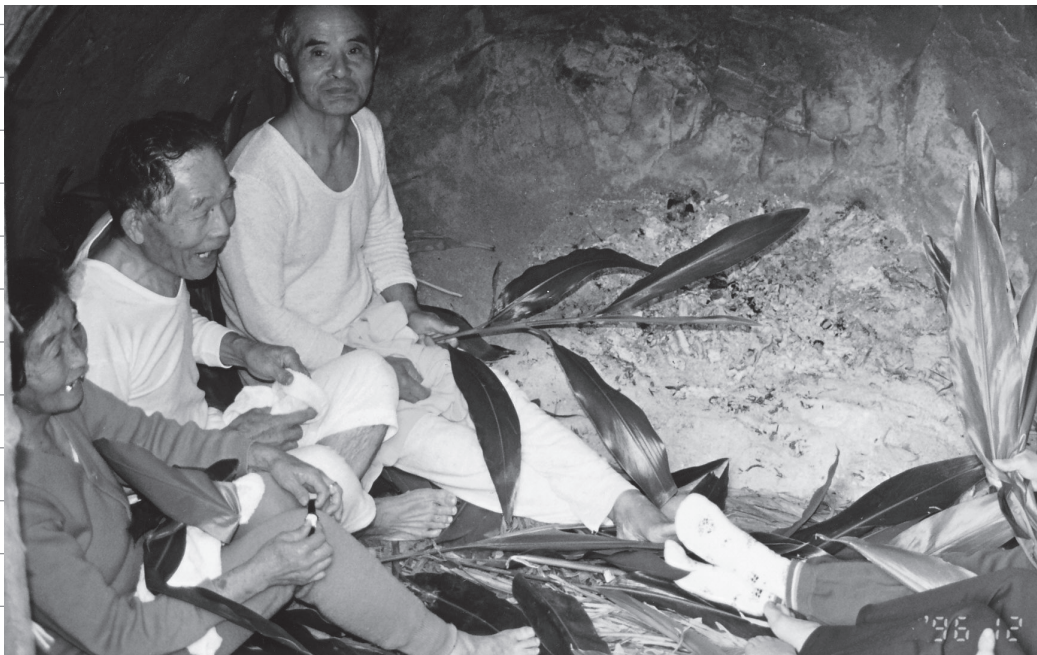
岩穴焚きの方法は、まず中で火を焚き岩穴の中全体を暖めます。次に穴の中央に残り火を集め、その周囲に小枝や柴、ゲットウの葉、バショウの葉等を敷きつめ、入浴者はその上に座ります。最後に藁で作った蓋で入り口を密閉し、発汗を促すのです。

昔は町内各集落にそれぞれ岩穴があり、今でも、田代神社境内などに残っています。

広田集落では、この貴重な伝統文化を守るため、西銘吉十郎氏らが中心となって、昭和 48 年 4 月に岩穴を修理し、岩穴焚きを復活させました。近年では、平成 8 年に岩穴焚きを行っています。



岩穴入口



平成 18 年に行われた広田集落の岩穴焚き